

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	あきたけんりつあきたみなみこうとうがっこう				②所在都道府県	秋田県
27～31	①学校名	秋田県立秋田南高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科715名 英語科104名 全校 819名	
普通科	240	40	40		320		
英語科	35	35	34		104		
⑥研究開発構想名	「こまちの里」秋田の高校生が「地球村」の食糧問題に挑む！						
⑦研究開発の概要	(1) 世界の食糧問題の解決を目指す課題研究活動「国際探究」の推進 (2) 問題解決力育成授業の研究推進 (3) 国際教養大学（スーパーグローバル大学）との教育連携の推進						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 ① 目的 本校生徒が目指す「グローバルリーダー」とは、今日世界が直面している課題をグローバルな視点で考察し、解決策を考えていくことのできる人間である。秋田の農と食の特長と課題を見つめ直し、農業大国オーストラリアのそれらを調査研究しながら、世界の食糧問題の解決策を提言するという、「こまちの里」秋田でなければできない課題研究活動を通じて、成果を自己の生き方に反映させ、実際に社会に働きかけていく発信力や実践力を備えたバイタリティーあふれる人間を育成する。 ② 目標 ・身近な事象と世界全体の問題を結び付けながら、積極的に課題を解決しようとする態度・姿勢の育成。 ・グローバルリーダーに不可欠な「課題設定能力」、「課題探究能力」、「論理的思考力」、「プレゼンテーション能力」、「実践力」の5つの能力の育成。					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 ① 現状の分析 今年度、秋田県の予算措置により、1年生が課題研究活動「国際探究」を行っている。食糧問題について郷土秋田の現状から課題を発見し、世界的な視点で問い直して研究を進め、成果や提言を発信するというもので、SGHで予定している「国際探究I」を想定した活動である。国際教養大学で開催した成果発表交流会では、1年次の研究成果が発信され、開催後に実施した生徒へのアンケートからその有効性が顕著に示された。 ② 研究開発の仮説 学校設定教科「国際探究」による課題研究活動及び問題解決力育成授業研究の推進により、日常的に思考力や表現力等を高める授業を実践することで、「目標」に示したグローバルリーダーに不可欠な能力を育成することができる。また、スーパーグローバル大学である国際教養大学との教育連携によって一貫性をもって体系的にグローバルリーダーを育成することができる。					
		(3) 成果の普及 ・課題研究の成果発表交流会やシンポジウムを、海外交流拠点、公共のホール、行政組織や企業の会議の場等で開催し、秋田県知事や秋田県教育長、企業の経営者にも出席を依頼した上で、提案や提言をする。 ・問題解決力育成授業研究の成果を発信する公開研究会を開催する。 ・研究開発の過程や成果を定期的に学校ホームページ上で公開し、SGH通信を発行する。					

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 世界の食糧問題の諸相を理解した上で、秋田の「農と食」の特長を見つめ直し、農業大国オーストラリアの「農と食」の状況を合わせ考えながら、食糧問題の解決に向けて研究テーマを設定する。オーストラリアや国内におけるフィールドワークや海外の連携高校とスカイプを通じて研究を進めるとともに、考察を深め、最終的には対外的な提言を形成することを目指す。並行して、考察や提案を効果的に発信するための表現力や英語コミュニケーション能力を育成する。 課題研究の最終目標は、「こまちの里」秋田の高校生が、世界の食糧問題の解決に関する具体的な提案を、地域や海外に向けて発信をすることである。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 ① 国際探究Ⅰ— 秋田経済研究所や県内各大学教員、SGH専属講師による講座、オーストラリアの大学生との意見交換、テーマ設定と同一テーマで編成されたグループによる探究活動、海外や国内のフィールドワーク、初期研究成果発表交流会 ② 国際探究Ⅱ— 大学教員やSGH専属講師による、研究テーマを題材にした戦略的表現力講座、食糧問題に関する多様なテーマについての検討交流会、スカイプによる国際討論会、徹底したグローバル視点での研究の深化発展、発展的フィールドワーク、海外交流拠点での成果発表と意見交換会、地域の公共施設での成果発表会 ③ グローバル・イシュー— 大学教員等による専門的見地からの研究への指導助言や学会発表実践講座、学校祭での公開プレゼンテーション、大会場でのSGHシンポジウム開催、研究論文集作成 《検証評価：ポートフォリオ、ワークシート、各活動毎の振り返りシート、活動計画書、活動報告書、レポート、研究論文、評価アンケート、校外大会参加状況等》</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 1年普通科の「現代社会」及び英語科の「政治・経済」1単位と「総合的な学習の時間」1単位を減じて「国際探究Ⅰ」2単位を、2年普通科の「コミュニケーション英語Ⅱ」及び英語科は「総合英語」1単位と「総合的な学習の時間」1単位を減じて「国際探究Ⅱ」2単位を、3年普通科「コミュニケーション英語Ⅲ」及び英語科の「総合英語」を1単位減じて「グローバル・イシュー」1単位を設定する。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ① 各教科における問題解決力育成授業研究・指導法研究の推進 問題解決力育成授業研究班が中心となり、研究推進会議と校内授業研究会の積み重ねによって、アクティブラーニングのモデル授業を各教科で研究開発し、研究成果を公開授業研究会によって検証し、更に改善に向けて研究する。 ② 本校のSGHと国際教養大学のSGUとの教育連携 中高一貫校となる本校と国際教養大学が有する発表発信能力の育成に関する高い専門性や、学生や留学生の英語コミュニケーション力を活用することにより、「スーパーグローバル高校・大学連携」を推進し、「中・高・大一貫教育連携」によるグローバルリーダー育成を考えている。中でも留学生については、世界44か国・160の提携大学から集まる留学生を人的リソースとして活用した協働学習を推進する。連携事業の実績や、事業後の双方の職員や生徒のアンケート等によって検証改善を図る。</p> <p>(2) 課題研究以外の取組で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 「南高グローバルライブラリー」を設け、世界の諸問題に関して調査できる環境を整備するとともに、生徒が世界に遍在する社会課題に積極的に取り組む態度を育成するために、国際貢献支援活動や国際教育体験活動等の校外セミナーへの参加、ディベート大会や英語弁論大会、スピーチコンテスト等への参加も評価の対象としていく。</p>
<p>その他 特記事項</p>	<p>本校は、平成28年度より中高一貫教育校となるが、その基本理念として「郷土や国家を支える高い志と国際的な視野を備えたグローバルリーダーの育成」を掲げ、SGH事業の実践と継続による新しい学校づくりを構想している。</p>

ふりがな	あきたけんりつあきたみなみこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	秋田県立秋田南高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	250人
	SGH対象生徒以外:	人	500人	人	人	人	人	人	240人
目標設定の考え方: 現在6割の生徒が取り組んでいるので、SGH対象生徒は8割、その他の生徒は現状維持。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	8人
	SGH対象生徒以外:	3人	3人	人	人	人	人	人	2人
目標設定の考え方: SGH対象者は1年に1人ずつの増加で31年度は5人増を目指す。学校全体で10名。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	%	40%	%	%	%	%	%	45%
目標設定の考え方: SGH対象者は半数。対象以外の生徒も波及効果で、割合を増やす。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	人	3人	人	人	人	人	人	3人
目標設定の考え方: 各大会に積極的に参加させ、入賞者を2, 3年生で5人ずつに増やす。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	%	30%	%	%	%	%	%	35%
目標設定の考え方: SGH型授業の実践により、SGH対象生徒の半数を目指す。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	75%
	SGH対象生徒以外:	10%	10%	%	%	%	%	%	15%
目標設定の考え方: SGH対象生徒の4分の3は高校で学んだことを大学でも継続して研究させたい。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	0人
目標設定の考え方: SGH対象生徒の卒業年度より毎年1人ずつ増加させる。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	75%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: SGH対象生徒の4分の3は高校で学んだことを大学でも継続して研究させたい。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	38人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 現在も4割の生徒が大学在学中に留学したいと考えているので、SGH対象生徒はそれを5割に伸ばす。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	0人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 1年次を中心に各学年の生徒を国外研修に参加させる。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	270人	人	人	人	人	人	320人
目標設定の考え方: SGH対象生徒は全員国内の研修に参加させる。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	0校	校	校	校	校	校	3校
目標設定の考え方: オーストラリアの大学・高校で3校を確保する。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	20人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 26年度の「国際探究」活動での実績を土台に, 年次的に増加させていく。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	20人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 26年度の「国際探究」活動での実績を土台に, 年次的に増加させていく。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 2, 3年生、各10人ずつ。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	人	2人	人	人	人	人	人	6人
目標設定の考え方: 各学年2人ずつ。								
先進校としての研究発表回数								
h	回	1回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方: 26年度の「国際探究」活動での実績を土台に, 年次的に増加させていく。								
外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i		×						○
目標設定の考え方: 年次計画で31年度までに完全に整備する。								
問題解決力育成授業に関する公開研究会の実施								
j		×						○
目標設定の考え方: 27年度から授業研究を始め, 校内研究が熟成される30年度に, 公開研究会を開催する。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	822	819	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							